

17. 『お正月お伽噺』の表紙とタイトルページ

『子供の夢』の本文は「(子供の夢、終)」という記述をもって終わるが、同書をめぐる物語はまだ終わらない。『子供の夢』刊行からちょうど8か月と4日(奥付の発行年月日による)後、装いも新たに『お正月お伽噺』というタイトルで再登場することになるのである。

調査対象の国立国会図書館蔵『お正月お伽噺』は受入後に修理された形跡があり、本体より一回り大きなボール紙製の保護用表紙によって全体が覆われていた。

保護用表紙を開くと本来の表紙が出現する。本来の表紙は芯のない柔らかな紙製の表紙であったらしい。前表紙の表面には「お正月お伽噺」というタイトルと白兔の彩色画がある。後表紙には出版社の社章と思われる図案がある。保護用表紙の背部分が本来の背表紙を覆い隠しているため、背表紙を実際に調査することはできなかった。したがって残念ながら背表紙に何が書かれているのかは不明である。

タイトルページ表面には以下の記載がある。

上部：「不思議な初夢 | [ブランク] | お正月お伽噺 | [ブランク] | 洋服姿の白兔」
下部：「うさぎ山人編 | 椿花山人画」

タイトルページ裏面には何も印刷されていない。表裏ともにページ付けなし。なお、国立国会図書館蔵本のタイトルページ表面には「明治 | 44.12.15 | 内交」のスタンプがある。

18. 『お正月お伽噺』の奥付

奥付の記載事項は以下のとおり。

明治四十四年十二月一日印刷 明治四十四年十二月五日発行 定価金四拾銭
著作者 うさぎ山人
発行者 東京市四谷区永住町二番地 鹿塩亀吉
印刷者 東京市京橋区築地二丁目五番地 藪崎芳次郎
印刷所 東京市京橋区築地二丁目五番地 台紙開舎
発兌元 東京市四谷区永住町二番地拾号 彩文館スミヤ書店 振替口座東京二〇四四
市内代理店 東京市京橋区築地二丁目十五番地 靱山書店 電話京橋二一三九
同 東京市浅草区下平右衛門町九番地 岡村書店 電話下谷四四〇四
市内大売捌 東京堂・至誠堂・前川・上田屋・東海堂・北隆館・林平・文林堂・大川屋
地方大売捌 (名古屋) 川瀬(京都) 東枝律(大坂) 吉岡宝文館・福音社・盛文館(久留米)
菊竹金文堂(函館) 大盛堂(台湾) 新高堂(大連) 大坂屋(京城) 日韓書房

19. 『お正月お伽噺』の全体の構成

ページ付けおよび内容は以下のとおり。

p. [1] タイトルページ: [2] ブランク: 1-23, 第1章: [24] ブランク: 25-43, 第2章: [44] 図版: 45-65, 第3章: 66, 図版: 67-90, 第4章: 91-106, 第5章: 107-118, 第6章: 119-131, 第7章: [132] 図版: 133-144, 第8章: 145-179, 第9章: [180] 図版: 181-221, 第10章: [222] 図版: 223-239, 第11章: [240] 図版: 241-254, 第12章: [255] 奥付: [256] ブランク

ただし、p.176 に該当するページに印刷されたページ付けは 17 という2桁の数字のみであり、右端の数字が欠けている。

なお、上記とは別に全体のページ付けに含まれず独立したページ付けも有しない別刷用紙に印刷された彩色図版（裏面はblank）が各章冒頭に1枚ずつ（全体では計12枚）添付されている。

20. 『お正月お伽噺』と『子供の夢』

『お正月お伽噺』を『子供の夢』と比較した場合、その主な相違点は次の7点である。

- 1) 表紙が異なる。
- 2) タイトルページが異なる。
- 3) 序文が存在しない。
- 4) 目次が存在しない。
- 5) 第12章のタイトル（p.241）が「（一二）^{ゆめ}夢」である。
- 6) 『子供の夢』の「姉の夢」と題された部分（p.255-258）が存在しない。
- 7) 奥付が異なる。

21. 「妹の夢と姉の夢」から「夢」へ

第12章のタイトルが「妹の夢と姉の夢」から「夢」に変更された直接の原因は、『子供の夢』に収録されていた「姉の夢」部分が消失したことにあると推定される。「姉の夢」が存在しない以上、章タイトルが「妹の夢と姉の夢」のままでは章タイトルと内容とが一致しないことになる。それを回避するためには、内容に合わせて章タイトルを変更する必要があったのである。

この章タイトル変更は、新タイトルである「^{ゆめ}夢」のみが印刷された紙片（ただし、旧タイトルを覆い隠すために必要な余白を有する）を旧タイトルの印刷領域上に貼付することによって行われている。

このことから、『お正月お伽噺』の本文紙葉は『子供の夢』の本文紙葉をそのまま流用したものである、と推定される。もし新たに本文を印刷したのであれば、印刷前に印刷原版の該当箇所を修正してしまう方が、わざわざ訂正用紙を印刷し貼付するよりも遥かに簡単であった筈である。そうではなく上記のような修正方法が採用されているということは、本文紙葉流用の事実を証明するものであろう。

ただし本文紙葉流用説は、『子供の夢』と『お正月お伽噺』とで「奥付の印刷所」の名称と住所のどちらもが一致していない理由を説明することが困難であることも事実である。本文紙葉を流用したのであれば、少なくとも印刷所の名称あるいは住所のどちらかだけでも一致することが期待される筈だからである。

というような奥付の印刷所に関する疑問はもっともであるようにも思われるが、実はこの不一致は本文紙葉流用説を否定するものではない。奥付の印刷所は「奥付」の印刷所であり、それ以外ではあり得ないからである。『子供の夢』と『お正月お伽噺』の「奥付の印刷所」は、それぞれの相異なる「奥付」の印刷所に関する情報を提供しているものであり、それぞれの本文紙葉に関する情報とは無関係なのである。（と断定してしまっても良いのかしらん？）

22. 終わりに

最初は単なる新装版のように思われた『お正月お伽噺』であるが、その前身である『子供の夢』との微妙な相違は新たな疑問を提起し続けて止まない。なぜ「姉の夢」は削除されねばならなかったのか？ なぜ『子供の夢』というタイトルは変更されねばならなかったのか？ うさぎ山人なる雅号の由来は？ そもそも丹羽五郎氏とは如何なる人物であったのか？ 等々。今後の新たな発掘調査報告に大いに期待する次第である。